

号外(見本紙)

みやざき中央新聞は、毎週月曜日発行の週刊紙です。
全国各地の講演会取材し、面白かった講演内容を掲載しています。
特に、前向きな明るい話、高くなる話、感動する語を掲載します。
自分の脳にどんな情報を入力するかで、人生は大きく変わります。
最新号の見本紙をご希望の方は1か月(4回)無料で送ります。

宮崎発夢未来～感動の共感を世界中に

みやざき中央新聞

〒880-0911 宮崎県宮崎市田吉6207-3 info@miya-central.jp Tel(0985)53-2600 Fax(0985)53-5800
毎週月曜日(第5日曜日を除く)、月4回発行/1か月1,000円(税別・送料込)

生の机の横で勉強をしました。分からないところは先生から教えてもらいました。

あるとき、少年がふと今日は僕のお誕生日なんだと言ったんです。その子にとって心を開く最初の扉だったと思います。

夕方、先生は小さい花束とケーキを持って少年の家を訪ねました。汚れた暗い部屋に一人ぼんと座っていた少年は、先生の姿を見て子どもらしい笑顔を見せました。

年は部屋奥から小さいピンズを持ってきて、「これ、あげる」と差し出しました。そのピンズはふらが蠟で閉めてありました。

先生はそれをもちつて帰り、蓋を開けてみました。中は香水でした。お母さんが使っていた香水だったのです。

先生は香水が逃げないようにまた蠟を垂らし、きちんと蓋をしました。

学校が始まってからも、少年は勉強を続け、成績がどんどん伸びていきました。そしてその子が8年生になるとき、先生の転勤が決まりました。

「ああ、お母さんの香りだ」

しばらくして、先生はその少年に手紙を書きました。返事は来ませんでした。気にはなりながらも、その少年とは縁が切れたよくな気持ちでいました。

ある日、一通の手紙が来ました。そこには、「先生のおかげで高校に入学できました。奨学金をもらえたから、とてもいい高校に

行くことができました」

3年後、今度はカバンが届きました。「父はまだ大変な状態ですが、寄宿舎に入って高校を卒業できました。〇〇大学の医学部に進みます」と書いてありました。

そして、10年近い月日が流れ、少年のこどもを忘れかけていた頃、一通のきれいな封書が届きました。それは結婚式の招待状でした。「先生のおかげで僕は医師になりました。きな人と結婚することになりました。ぜひ結婚式に来てください」

先生は感動して、しばらく手紙を握りしめたまま、その場に立ち尽くしました。

結婚式の日、先生は大事にしまっていたあのピンズを出してきて、蠟を切つて蓋を開け、底のほうに少しだけ残っていた香水を嗅ぎました。

式場へ行くど、立派な医師に成長したあの少年が入グをしてくれました。かつての少年の姿が先生の脳裏によみがえり、「よくここまで頑張ったね」と心の底から祝福の言葉を贈りました。

彼は先生を抱きしめて嬉しそうにこう言いました。「ああ、お母さんの香りだ」

そして、「お母さんが生きてたら、お母さんに座つてもらおう席でした」と言つて、自分の隣の席に先生を座らせたそうです。

大人になったということとは...

私は、本当にっらい人とは、「自分は愛情をもらえなかった」という思い込みのある人だと思つています。

「人生は5歳までで決まる」という言葉もありました。どんなに家庭環境が貧しくても、生まれてから5年の間に十分に愛情をもらつて「生きるっていいことだな」という感覚を持てるのです。

でも、子どものときにっらい体験をすると思ひ込んでしまうのです。

小さいときに愛情をもらわなかった人は一生そうかと言つと、絶対そんなことはないです。それを取り去ることは難しいです。でも、あなたが大人になったという事実は、十分愛情をもらつていた証なのです。それがたとえ母親でなくても、どこかで誰かが愛情を手えてくれたから、大人になることができましたのです。

この少年もまた素晴らしいかつたと思ひます。なぜなら、その先生との縁を忘れず、縁を育んできたからです。こんな感動のお話が生まれたのも、先生からいただいた縁を少年が生かし続けたからです。

もしあの先生と出会えなかったら、彼はその頃のっらい体験から「自分はダメな子だ」と思ひ込んで、本当にっらい人生を送つたかもしれません。

でも彼は先生との縁を自分の未来にっかりつなげました。

縁を生かす。これが人生、生きていく上でとても大切だと思ひます。

(照陽会が主催した講演会より／鈴木龍男 北海道特派員取材)